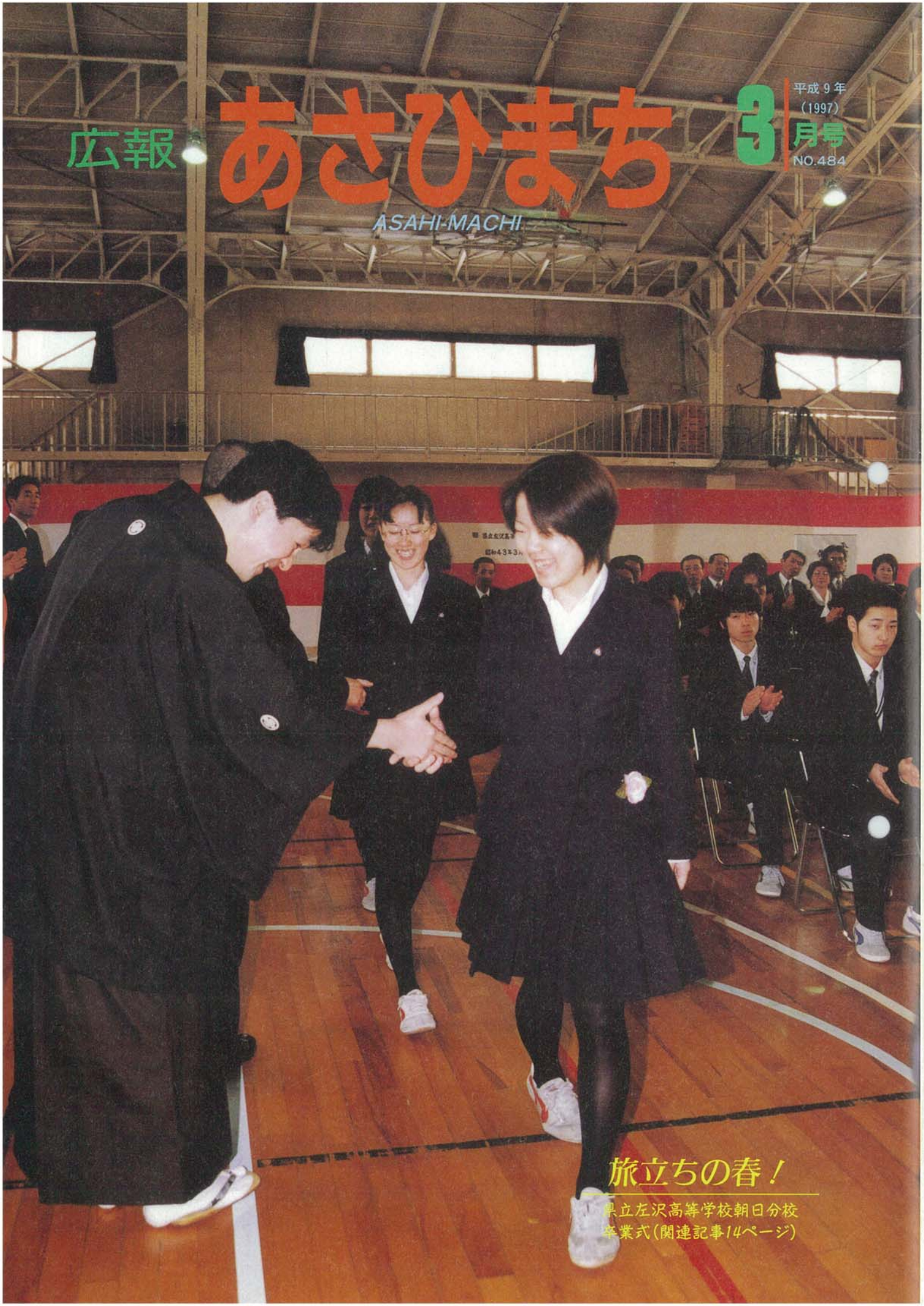
広報

あさひまち

ASAHI-MACHI

平成9年
(1997)
3月号
NO.484



旅立ちの春！

県立左沢高等学校朝日分校
卒業式(関連記事14ページ)

児童５人による呼びかけで杉山分校に最後の別れを告げた

長い歴史と伝統は心の中で永遠に生き続ける

杉山分校・川通分校閉校式

四月一日より本校に統合されることになった、上郷小学校杉山分校（海野寛校長）と大谷小学校川通分校（佐藤直明校長）の閉校式が行われ、児童や地区民、学校関係者らが長年親しんできた学び舎に別れを告げました。

杉山分校は明治十三年、上郷小学校杉山分校として開校し、今年で百十七周年を迎えます。川通分校は明治三十五年、大谷尋常小学校川通分校場として設置され、九十五周年を迎えます。

三月四日に行われた杉山分校の閉校式には、父兄や地区民も出席する中、海野校長や清野町長があいさつ。その後、五人の児童による呼びかけが行われ「杉山分校で学んだ二年間を誇りにして、本校のみなさんに負けないように頑張ります」と杉山地区全体に響き渡る

出席者全員による記念撮影

児童２人によるお別れのことばで川通分校に最後の別れを告げた

大きな声で別れを告げました。

三月八日に行われた川通分校の閉校式では、参加者全員による校歌斉唱が行われた後、鈴木三郎教育委員より閉校までの経過を報告。その後、二人の児童がこれまでの思い出を振り返りながら「分校での生活は楽しいことばかりでした。本校に行っても楽しく勉強したいです」と分校に別れを告げました。

また、平成三年から杉山分校警備員の斎藤美智子氏と、同じく昭和六十三年から川通分校警備員の志藤栄次郎氏に、町教育功労者表彰が贈られました。

なお、児童たちは新年度から町路線バスやタクシーなどで通学します。校舎は両分校とも取り壊され、跡地は区民のみなさんが気軽に集える小公園として整備する計画です。

出席者全員による記念撮影

閉校によせて

朝日町長
清野　隆

上郷小学校杉山分校と大谷小学校川通分校が、本校に統合されることになり、ここにその歴史の幕を閉じることになりました。

杉山分校は百十七年、川通分校は九十四年という長い間、地区民の心のより所、文化の拠点として多くの人々に支えられ育てられてきました。この学び舎を巣立っていかれた多くの卒業生及び地区の方々にとって、分校の閉校は言葉では言い表せない愁傷の念少なからずと思われます。

しかしながら、二十一世紀を背負って立つ子供たちの教育にとって「多くの仲間と共に学び合えるようにしてあげることが大切だ」という崇高な考えに立たれ、英断をもって本校への統合に進まれた関係者のご努力に対し、心から感謝を申し上げますと共に、両地区の益々のご繁栄と、次代を担う両地区の子供たちの活躍に限りない声援を贈り、挨拶といたします。

杉山分校 百十七年のあゆみ

明治13年3月20日 藤沢登見喜宅を借り受け、上郷小学校杉山分校が開校（杉山・針生・水本）
明治14年 針生・水本両村が杉山分校より分離する
明治17年 木造二階建校舎建築
明治20年 杉山簡易小学校となる
明治24年 校舎火災
明治25年 木造二階建校舎建築（建築費65円）・宮宿尋常高等小学校杉山分校となる
明治34年 上郷尋常小学校杉山分教場となる
明治35年 校舎増築（建築費150円）
大正元年 五年生は本校へ通学
昭和16年 宮宿町立上郷国民学校杉山分教場となる
昭和22年 宮宿町立上郷小学校杉山分教場となる
昭和26年 四年生は本校へ通学
昭和29年 朝日町立上郷小学校杉山分校となる
昭和54年 強風により校舎及び物置小屋が大きく破損する
昭和55年 創立百周年
昭和56年 在籍児童がなく休校
平成2年 再開校（入学児童一人）
平成9年3月4日 閉校記念式典
同 年3月20日 創立百十七周年
同 年3月31日 杉山分校閉校

思い出のアルバム

▲分校校舎前での入学記念撮影（昭和７年・杉山分校）

▲分校前周辺風景（昭和37年・杉山分校）

▲杉山子供会芋煮会（昭和32年・杉山分校）

▲最上川大洪水で家屋流失（昭和42年・川通）

▲授業の様子（昭和19年・川通分校）

▲分校校舎前での入学記念撮影（昭和12年・川通分校）

川通分校 九十四年のあゆみ

明治35年11月25日 大谷尋常小学校川通分教場が、冬期間の雪中分教場として開校
明治43年 常設分教場を設置する
大正14年 飲料水井戸を設置する
昭和11年 積雪のため校舎屋根崩壊する（幸い児童の事故なし）
昭和16年 大谷村国民学校川通分教場となり、四月より四年生は本校に通学となる
昭和22年 大谷村立大谷小学校川通分教場となる
昭和23年 大谷村立大谷小学校川通分校となる
昭和29年 朝日町立大谷小学校川通分校となる
昭和36年 幼児学級発足
昭和38年 三年生は本校へ通学
昭和42年 最上川大洪水　臨時休校となる
昭和48年 分校プール落成
昭和52年 川通地区水泳大会が開催される（その後数年継続）
昭和54年 強風のため屋根が破損する
平成4年 在籍児童がなく初めての休校となる
平成5年 再開校（入学児童二人）
平成9年3月8日 閉校記念式典
同 年3月31日 川通分校閉校

ぼくたち・わたしたち 杉山分校 川通分校での思い出

子供のことを第一に

安藤　俊一さん
（65歳・杉山区長）

私が子供のころは、四年生まで四十人ほどの児童がいながら、先生が一人しかいませんでした。ほとんど自習に近い状態でしたので、下級生が上級生に勉強を教えてもらったりしながら、子供たち同士で学び合っていた思い出があります。

閉校となると、地区のシンボルが無くなり寂しい感じがしますが、子供たちやこれからの教育を考えた場合には、やむを得ないと思います。町の学校教育方針では、今後も統合される小学校があると聞いています。子供のことを第一に考えれば、おのずと進むべき道は決まってくるのではないのでしょうか。該当する地区は、町とよく話し合いをしながら解決していただきたいと思います。

杉山分校二年
安藤　勝浩　くん

二年間、杉山分校に通っての一番の思い出は、近くの山にのぼって、てっとうのそばにすわり、みんなでおべん当を食べたことです。

ながめがよくて、とてもおいしかったです。

杉山分校二年
齋藤　友恵　さん

二年間の分校での一番の思い出は、そだてたじゃがいもをほってカレーを作ったことです。家でおかあさんが作ってくれるカレーもおいしいけれど、自分たちで作ったカレーもとてもおいしかったです。

杉山分校二年
鈴木　勇二　くん

二年間、分校でべん強をしての一番の思い出は、五人だけでゆうゆうとプールでおよいだことです。体育の時間にいっしょうけんめいれんしゅうをして、きょ年の水えい大会では、三このメダルをもらいました。

杉山分校二年
齋藤　智美　さん

二年間、杉山分校ですごしての一番の思い出は、生活科の時間にみんなで近くの山にしぜんを見に行って、花や虫をとってきたことです。また、歩きながら、音楽の時間にならった歌も歌いました。

杉山分校二年
鈴木沙那恵　さん

二年間、分校で生活をしての一番の思い出は、春にグランドにあるさくらの木の下で、花見をしながらべん当を食べたことです。みんなでおかずをとりかえっこもして、とても楽しかったです。

川通分校一年
志藤　陽平　くん

ぼくは、三人でプールでおよいだのがたのしかったです。分校のプールは二十五メートルあり、ひろいプールでおいかけっこをしたり、ビートばんでおよいだりしました。いっぱいおよいでじょうずになりました。

川通分校二年
志藤　渚　さん

わたしの分校での思い出は、夏休みのおわりごろにおとまり会をしたことです。みんなで、そだてたやさいをつかってカレーをつくったり、きもだめしをしたりして楽しかったです。ねるときもおもしろかったです。

時代の変化に対応

志藤　正紀さん
（56歳・川通区長）

私が子供のころは、三年生までが分教場で学んでいましたので、教室は二十人ほどの子供たちでいっぱいでした。終戦直後で紙が不足し、ノートの代わりに石板、教科書は新聞紙のような紙に印刷されてきたものを、自分たちで製版して作成しました。もっとも勉強よりも食糧不足の方が深刻で、毎日、川や山で魚や木の実を食べていた気がします。

時代の変化で子供の数が減り、この度、川通分校が閉校されます。正直言って寂しい感じがしますが、集団の中で学び競いあった方が子供たちのためになると思い、閉校に同意しました。これからは、お年寄りから子供たちまで交流できる行事を考えたいと思います。

今こそ新しい風を

町地域開発討論会

3時間に及ぶ白熱した討論が行われた

長期化する経済不振の中で、県内の各分野で元気に活躍している方々の意見を聞きながら、今後の朝日町の活性化について考えようと二月九日、町中央公民館で「エネルギッシュに変身―今こそ新しい風を―」と題する討論会が行われました。

当日は、三人のパネリストが各々の体験談や考え方を紹介しながら、約百二十人の参加者と積極的な意見の交換を展開。今回のパネリストは、上山市で観光果樹園を営む川口美代子さん、県内でローカルシューズチェーンなどを展開している㈱マルシメ社長の斎藤賢一さん、立川町役場職員で風にこだわる風車構想を手掛ける阿部金彦さんの三人。進行役は、主催者の朝日町地域開発研究会の阿部宗一郎会長が務めました。

討論会で川口さんは「人と人との付き合いから農作物の通信販売のヒントが生まれた。自分だけ儲けるのではなく、地域全体が儲けなければ町は活性化しない。人に感謝する気持ちを忘れない心のサービスがもっとも大切」。斎藤さんは「時代の流れを見極めることが大切であり、危険を承知で挑戦しなければならない時もある。大型店の進出を反対するのではなく、いかにそれを利用するかがこれからの小規模商店のポイントである」。阿部さんは「強風というマイナスをプラスに転換することが、町の活性化につながった。風にこだわりを持ったことで、町民の心に〝元気〟という風が吹いたようだ」などの意見が出されました。

最後に阿部会長からは「時代の変革期だからこそ、自分自身の能力開発をしなければならない。新たな経済活動を展開し元気を出さなければ」と呼びかけ、三時間に及ぶ白熱した討論を繰り広げました。

町民の声特急便コーナー

町民のみなさんよりお寄せいただいたご意見・提言を紹介します。

通　信網が盛んになっている今日、朝日町においても携帯電話を早急に使用できるようにお願いしたい。県内でも使用できない市町村のほうが少ない。また、阪神淡路大震災では携帯電話がかなり役に立ったとマスコミでも伝えられている。

会社員（大谷）

携帯電話は予想以上の早さで普及しています。仕事や生活面での利用はもとより、万一の災害の場合も利用価値が高いものと承知していますが、当町では携帯電話がほとんどの地域で使用できません。

以上のことから、町ではかねてより移動通信用鉄塔施設の整備について関係機関に要望をしてきましたが、先般、ＮＴＴ東北移動通信網㈱（ＮＴＴ　ＤｏＣｏＭｏ）より、平成九年の夏頃までには、当町をサービスエリア内に含めるべく施設整備を予定しているとの説明がありました。現在、同社が施設の設置用地について取得交渉中であると聞いております。

ただし、一挙に町全域での使用可能とはならず、国道沿線以外の山間地については、電波通信の関係から使用不可能な地域も出てくるものと考えています。

企画課

高　齢化社会の今、私の周りには寒河江市や山形市などの眼科に通院している方がたくさんいます。各家庭における車の保有台数も多いためバスの運行回数も非常に少なく、半日から一日かけて通院している現状です。そこで、町立病院の改築に併せて、眼科の新設（週一日か二日でも）をお願いします。

長岡征子（本町）

当町の高齢化の現状や将来を考え、町民のみなさんの要望に応えるべく検討を行っています。当面は、もっとも要望の強い整形外科の設置に努力中であります。眼科についても設置の方向で検討していますが、時期については現在未定です。町立病院

広げたい学ぶよろこび地域の輪

第九回町生涯学習推進大会

町連合婦人会役員のみなさんによる「朝日町小唄」が披露された

「広げたい 学ぶよろこび 地域の輪」をテーマに、第九回朝日町生涯学習推進大会並びに町民大学履修証書授与式が二月二十三日、町中央公民館で約四百人が参加し盛大に行われました。

町民大学は九年前に設立されたもので、各種文化教室やスポーツ大会などに単位を設けながら、だれもが自由に参加し、単位を取得していく制度です。

大会では始めに、履修証書の授与が行われ、町民大学で共通科目三単位以上、専門科目七単位以上履修した百二十五人を代表し、鈴木みよさん（西町）に町民大学学長の清野町長より履修証書が手渡されました。続いて、㈱朝日相扶製作所から贈られる特別賞が、個人では最多単位履修者の阿部トシ子さん（松程）に、団体では劇団「りんご村から」（座長岡崎文彦さん）にそれぞれ贈呈されました。

その後、学習活動の体験発表が行われ、町連合婦人会が小野美代子さん（常盤）より振り付けていただいた「朝日町小唄」の踊りなどを披露しました。午後からは、医学博士松原英多さんの「女性の長生きの秘密はおしゃれにあった」と題する記念講演が行われ、ユーモア交えながらのテンポ良い話し方で「男性も女性のようによくしゃべり、おしゃれになればもっと長生き出来るはず」と話され、会場は笑いの渦に包まれていました。

医療福祉の拠点まもなく完成

町立病院診療棟改築工事

3月末の完成に向け工事が急ピッチで進められている（写真奥）

老朽化した診療棟を改築しようと、昨年七月より着工している町立病院診療棟一部改築工事が、三月末の完成に向けて急ピッチで進められています。

今回の改築は、診療棟の外来診察室や手術室、検査エックス線室などが新しくなるもので、建物は鉄筋コンクリート造り一部二階建て、延べ床面積約千八百五十平方メートル。総事業費はおよそ七億円の見込みです。

また、来年度はリハビリテーション施設など、残りの約四百八十平方メートルを着工します。

新しい診療棟での診察開始は四月一日の予定です。

人権のまど

人権モデル地区活動のご協力ありがとうございました

町では国より人権モデル地区指定を受け、昨年四月に推進協議会を設立。「人権は相手を思う心から」をメインテーマに明るく住みよい町づくりをしようと、人権思想の普及、高揚に努めてきました。

この間、人権の花いっぱい運動、月毎の人権相談、アンケート調査、講演会、婦人会との共催で行った講話と映画の夕べ、保育園での人権サンタクロースの実施など各種事業を展開してきました。これらの事業を通じ、人権問題を改めて考える機会を得たことは大きな収穫でした。

特に宇宙科学研究所の的川教授による講演会は、「二十一世紀を目指す日本の宇宙科学」と題し、中学校全生徒に分かりやすく内容の濃い講演となり、宇宙に夢はせる生徒たちの目が輝いていました。宇宙は無限に広く地球は一握りの惑星に過ぎない。そこに住む人間の争い、いじめや憎しみなど取るに足らないことを実感したと思います。

私たちはだれでも人間らしく生き、幸せになる権利を持ち、互いに尊重しなければなりません。そのためには共に思いやり、いたわりあい、励まし合っていく必要があります。先輩が残してくれた「お蔭様で」という言葉を思い出し、それを合言葉にしながらこの一年間の実践を足掛かりにして、すばらしい町づくりに努めようではありませんか。

人権モデル地区推進協議会は、三月二十五日の総会で解散します。この間、町民のみなさんや関係機関から寄せられたご支援、ご協力に感謝申し上げます。

暗がりの山麓に ほんのり灯る 雪のランタン

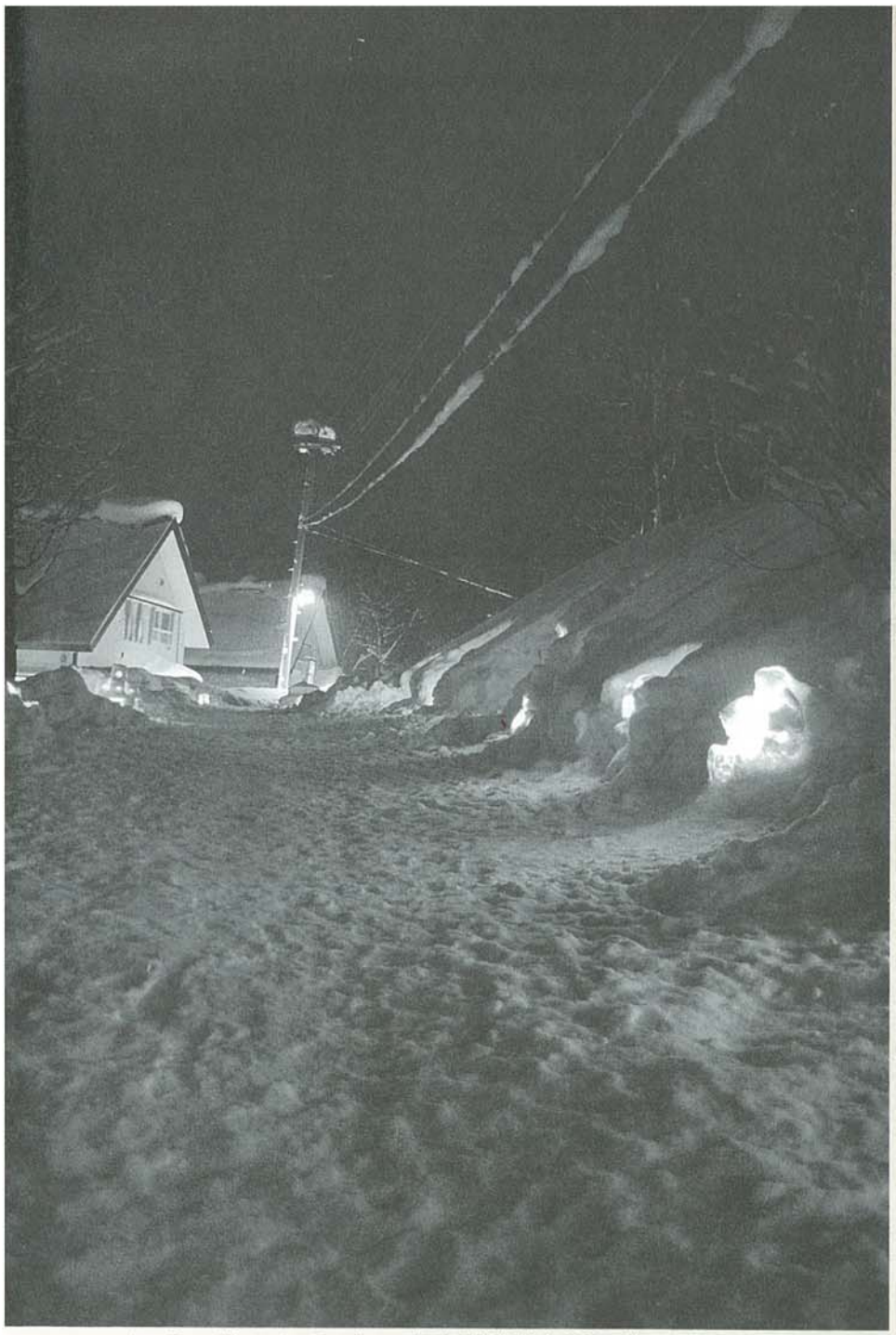
雪が降りしきるあいにくの空模様になった二月二十二日、スノーランタンコンテストが朝日自然観で行われました。このコンテストは、地元産の蜜ロウソクを使い雪像や雪灯ろうとも違う新しい雪のイベントとして、町観光協会と商工会青年部が企画したものです。

当日は、町内の親子連れなど二十一組、三十五人が参加して、シャベルやヘラなどを使いアンパンマンや建物などといった思い思いの作品を作製。蜜ロウソクに明かりがともされると、暗がりの山麓にほんのり灯るスノーランタンが幻想的な世界を演出しました。

作製

▶蜜ロウソクづくりにも挑戦

▶ALTのニールさんも参加



▲コテージとスノーランタンの灯りが幻想的な世界を造りだす

▶アンパンマンを作製する鈴木俊一さん(大町)親子、細部は良介くんが担当し、お父さんは助手

▲新雪のため雪が固まらず中から堅雪を掘り出して

◀冷えきった体をホットココアが温めてくれた

▶さまざまな形のスノーランタン

みんなのひろば

このひろばはみなさんのページです。話題や意見、作品など、ご自由にお寄せください。

■連絡先 役場総務課文書広報係へ
☎67—2111（内線216）

新婚さん

送橋／清野 精一さん 美紀さん

山形そばの販売をしていた精一さんと、東根のお菓子屋の娘の美紀さんが知り合ったのは、仙台のデパートで行われた「山形のうまいもの会」の催場。身長185cmの精一さんを見て、「でっかくて、のれんから顔が見えないような人だな」と思ったとか。1年経って、再び同じ催場で出会い、自然に引かれていったふたり。10歳年上の精一さんは、「（美紀さんと）めぐり逢うのを今まで待っていたんだ」とおのろけやジョークの連発。お母さんも家の中にバラが咲いたようだと喜びを話してくれました。

明るく楽しいふたりですが、交際中は美紀さんの両親から大反対にあったり、仕事の都合で月に1・2回しかあえなかったりと、障害が多かったようです。現在は、美紀さんの実家にふたり仲良くご出勤。「40分の通勤時間や仕事場が同じことを考えると、けんかもしていられないからいいですよ」と、仲の良い素敵な新婚さんでした。いつまでもお幸せに！

すてきな仲間たち

送筆会

書に心を込めて

平成3年に日常使っている文字を美しく書きたいという送橋区民の盛り上がりがあり、公民館活動の一環として書道を習うことにしました。農閑期の冬期間を利用して、ゆったりした心で書道を楽しんでいます。

当時、会の名称を考えたところ、送橋の送が筆を運ぶということから「送筆会」と決まりました。現在、ご指導してくださるのは松本先生で、先生の手本を参考に精神を集中して習っています。

また、書道を終えるとお茶を飲みながら雑談に花を咲かせたり、最終日には納会を行ったりして、老若男女和気あいあいと親睦を深めながら楽しくやっています。みなさんも始めてみてはいかがでしょうか。

（会長 渡辺秀雄 ☎67—7234）

せんせい ふたば保育園 あ・の・ね

保　母「Aくん、大きくなったらどんな人になるのかな？」
園児A「ぼくよー、給食の先生好きだから、給食のおじさんになる」
保　母「そう、楽しみだね」
園児A「うん。今度、先生のためだけにすごくおいしいハンバーグ、先生につくってけっからな」
保　母「楽しみにまってるからね」

志藤　一彦さん
（川　通）

ひとことトーク

まもなく野球シーズン到来

～野球の魅力に取り付かれた男～

長い冬も終わりに近づき、まもなく春が訪れます。プロ野球もオープン戦が始まり、草野球プレイヤーにとっても肩がむずむずしてくる、そんな季節となりました。

現在は、職場や町内の野球バカが集まったチームなど、三チームに所属しています。また、昨年の六月に結成された町内二つ目の野球スポーツ少年団「ブルーウイングス」の監督も引き受けており、春から秋までの週末は野球一色となります。

野球の魅力は、勝ったときの喜びと負けたときの悔しさをチームみんなで味わえること。個人競技では決して味わうことのできないものです。シーズン中は家族をどこへも連れて行けないので、後ろめたい気持ちもありますが、生涯野球を続けていきたいと思います。

わが家のアイドル

「雪遊びが大好きです」
阿部実優ちゃん（３歳・大暮山）
（両親は史郎さん・直美さん）

「おやすみの前に」
鈴木　諒くん（３歳・元町）
（両親は正さん・育江さん）

「今日はわたしの誕生日」
鈴木芹奈ちゃん（２歳・松程）
（両親は政広さん・さゆりさん）

「ナイススマイル」
阿部研太くん（２歳・今平）
（両親は正好さん・みき子さん）

りんごジュース工房におじゃまします

自然農産物加工所 マルフジ

能中
電話 伊67−7614
志67−3761

完熟りんご100%のジュースの数々

伊藤益雄さん（左）が代表となり４人で経営している。右奥が伊藤さんの妻しづ子さん、右が志藤寛一さんと妻の美喜子さん。

▼りんごジュースをつくり始めたきっかけを教えてください

長野県では、自家製のりんごジュースを八十人ほどでつくっており、その内の六人が販売に成功していると友人に聞きました。やはりこれからの農業は農作物をつくるだけでなく、農家本人が販売したり、ジュース用にしかならないりんごを加工し付加価値を付け、新しい商品として売り出していくことが必要と思いました。ジュースづくりは農閑期にできますし、原料のおいしいりんごは朝日町にたくさんありますからね。

▼りんごジュースの特徴は

「日本一のりんごの里・朝日町」の完熟リンゴを原料にしてつくられた果汁一〇〇%のジュースですので、味は保証します。品種別に搾っていますので、いろんな味と香りが楽しめます。

▼お客様の反応はいかがですか

ほとんどのお客様が「一度飲んだら忘れられない本物の味ですね」と言ってくれます。

▼これからの目標は何ですか

お客様に長く愛されるりんごジュースをつくっていきたいと思います。また、このりんごジュースが、朝日町のりんごを全国にピーアールする一つの手段になれればと思います。

よくわかる「エコミュージアム」入門 ⑲

地域自慢とエコミュージアム

以前にも〝よくわかる「エコミュージアム」入門〟で町の宝物について掲載しましたが、朝日町にはりんごやワインといったうまい食べ物や農産加工品、大沼浮島や佐竹家、朝日自然観、りんご温泉といった観光資源、わら細工や木工品などの高齢者の手仕事、大谷の風まつり、豊龍まつりなど、この町で受け継がれてきたすばらしい遺産や生活文化が数多くあります。

各集落においても、神社や石碑、おまつり、じいちゃんばあちゃんの昔話、民話、子供のころの生活習慣などがあると思います。このおいたちを探ってみてはどうでしょうか。きっとすばらしいものがでてくると思います。日本一やどこにもないものということでなくとも「ここにどうして神社が建てられたのか、あるいはここでどういうものがつくられ、どういう生活を行っていたのか」などと、昔ながらの生活とのつながりをひもといていくと、今まで何げなく見ていた神社や石碑がすばらしいものとなって見えてきます。

自分の身の回りのことについてもう一度見直し、伝え保存し、そして新たな発想で活用して行くことがエコミュージアムであり、地域の誇りとなっていくのです。一つの集落のほんの小さなものであっても、町全体として見た場合、一つの小さな光が多く集まることによって明るい光となるように、町の大きな宝物となっていくのです。

エコミュージアムは、私たちが一体となってそれらを受け継ぎ伝え、自分たちの誇りとなるものを育て守っていくことでもあるといえます。

（朝日町エコミュージアム研究機構）

常盤の納経塔（板碑）

職場インタビュー

〈プロフィール〉
白田　美香さん（25歳）
大谷五・魚座・ＡＢ型

Q趣味は何ですか
バレーボールやマラソン、プロレスなどのスポーツ観戦で、特に野球が大好きです。でも、スポーツをする方は全くダメですけれどね。

Q野球はどこのファンですか
小さいころから巨人一筋です。昨年は九州までキャンプを見に行きました。プロ野球選手が朝から晩まで泥にまみれ、白球を追う姿に感動しました。今年は清原も入団したので楽しみです。

QUターンしたそうですが、帰って来ての感想は
やっぱり、母がつくる煮物や漬物がとてもおいしいです。大谷の空気や水がおいしいからでしょうか。

Qこれからの目標は
車の運転を上達させること。高校卒業後すぐに免許を取りましたが、東京に就職したので運転する機会がなく、六年間ペーパードライバーでした。ただ今特訓中ですので、私が運転していたらみなさんご注意ください。

Q最後に一言
アメリカンショートヘアの子猫を飼いたいので、どなたか譲っていただければ・・・大切に育てます。

わたしたちのおじいちゃん　おばあちゃん

水　本
高橋　亜美ちゃん（水本小５年）
　　恵美ちゃん（水本小４年）
おじいちゃん　壽男さん（69歳）
おばあちゃん　なかさん（66歳）

るす番をしたり、ごはんのしたくをしてくれるのはばあちゃんです。大根の煮物は特別おいしいし、しみもちやつけ物も、もちろんじょうずに作ってくれます。朝早くからじいちゃんの弁当作りもしています。じいちゃんは冬になると、ももひきを二枚も重ねてはいているので笑ってしまいます。スキー場のリフト係をしたり、民生委員の仕事で出かけたり忙しいです。仲のよい二人が、ずうっと長生きしてほしいです。　―亜美―

くらしの知恵袋　⑨

今、米を主食とした日本型食生活に世界各国から熱いまなざしが向けられています。米は水で炊くだけで誰でも手軽にでき、味が淡泊なので毎日食べても飽きない食品です。栄養価に富んでおり消化吸収もよく、さまざまなおかずとの組み合わせで、味と見た目の楽しさを十分演出できます。

◎ごはんで保つ栄養バランス

ごはんを含めて栄養のバランスをとるには、主食、主菜、副菜の組み合わせが必要です。主食はごはん、主菜は肉、魚、卵など、副菜は野菜料理です。それらをバランスよくとり健康な体を維持しましょう。

◎日本型食生活の見直しを

昭和37年をピークに一人当たりの米の消費量は大きく減少しています。これは食生活の洋風化と大きく関連しており、その結果、欧米型の病気が増えています。米は日本で100％供給できる安全な作物です。世界各国から注目される日本型食生活をもう一度見直しましょう。

今も昔も米は日本人の理想食

夢と希望を胸に旅立つ

朝日分校卒業式

県立左沢高等学校朝日分校の卒業式が三月二日、同校体育館で行われ、二十二人の卒業生が思い出多い学び舎をあとに旅立ちました。

在校生と父兄が見守る中、卒業生を代表して鈴木道彦くん(大江町)に、漆山新太郎校長より卒業証書が手渡されました。

漆山校長の式辞や清野町長の祝辞に続き、在校生を代表して布施洋一くん(大町)が「社会に出てからも一歩一歩自分の道を進んでください。在校生も先輩方を手本にし、一致団結して頑張っていきます」と励ましの言葉を贈りました。これに答えて若月一浩くん(西船渡)が「自然に恵まれたこの学び舎での思い出がたくさんあります。これからは社会人としての自覚と責任を持ち、勉強に励んでいきます」とお別れの言葉を述べました。

今年の卒業生の進路は、県内就職十三人(うち町内五人)、県外就職四人、専門学校五人となっています。

卒業生22人を代表し卒業証書を受けとる鈴木道彦くん

冬期間の運動不足解消に最適

健康ピンポン教室

女性の姿が特に目立ったピンポン教室

誰でも気軽に楽しめる卓球を通して、親睦を深めながら体力づくりに励もうと1月から2月初旬までの毎週金曜と土曜日の計10日間、健康ピンポン教室が町民体育館で行われました。

今回初めて開催されたもので、卓球未経験の女性や高齢者の方など約40人が参加。ピンポン球とラージボールをレベルに合わせて使い分け、白熱したラリーを続けていました。参加者中最年長の吉田芳美さん(72歳・西船渡)にピンポンの魅力を聞いたところ「友人に誘われて始めました。運動不足になりがちな冬のスポーツとして健康づくり、生きがいづくりには最高ですね」とすっかりはまってしまった様子。また、参加者らは回を重ねて行くうちに「ピンポン教室から愛好会を組織して続けていこう」と新たな盛り上がりを見せていました。

新ウインタースポーツを満喫!

チャレンジ・スノーモービル

わんぱくスクール「チャレンジ・スノーモービル」が二月八日、西部公民館周辺で行われ、町内の小学生十八人が参加しました。

当日は、講師に八ツ沼の阿部信治さんや登坂高典さんらを迎え、スノーモービルの乗り方から操作方法までを丁寧に指導。子供たちは、今か今かと待ちきれずにさっそく挑戦しましたが、うまく乗れずにフェンスにぶつかる場面も。「始めは怖くて乗れなかったが、慣れるとスピードがありすごく楽しい」と、新しいウインタースポーツにすっかり魅了されていました。

女の子もうまく乗ることができた

アイスワインの芳醇な味と香りを満喫

ワインの夕べ

私たちはアイスワインの大ファン

今年のアイスワインは酸味、甘さとも最高

特別限定吟醸品「極寒の葡萄の雫」の名称で、ワインファンにすっかりお馴染みとなったアイスワインを囲んでの試飲パーティー「ワインの夕べ」が二月二十二日、町農業団地センターで華やかに行われました。

アイスワインとは完熟ブドウを凍らせて圧縮し、染み出したエキスを醸造する独特の製法でつくられるもので、極甘の口当たりは、特に女性が飲みやすいと人気の高いワインとなっています。

㈲朝日町ワインの白田営業部長は「今年はブドウの作柄が非常に良かったことで、甘いだけでなくコクとキレがあります。こんなにおいしいワインは近年にない」と自信満々の様子。

この日、会場に集まった二百人のワインファンは、ムードあふれる室内楽演奏とアイスワインの芳醇な味と香りを満喫していました。

生きがいづくりに「いきいき健康教室」

ティッシュボックスづくりに挑戦

町では、生きがいづくりや寝たきり予防を目的に、平成六年から「いきいき健康教室」を開催しています。今年度は助ノ巻長寿クラブのみなさんを対象に、水力発電施設周辺地域交付金事業により集会室や調理室などが増改築された助ノ巻公民館で行われました。

教室では手芸や健康食の調理実習などが行われ、参加した約三十人のみなさんは「新しい趣味ができました。また教室を開催してください」と好評でした。

がんばった人に拍手

■第12回ゲートボール大会（11／23）子供の広場
1位―栗木沢　2位―宮宿　3位―新宿

■第33回町民卓球まつり（2／11）町民体育館
◆団体戦　1位―送橋　2位―夏草　3位―西船渡
◆小学男子シングルス　1位―岡崎直樹　2位―渡辺靖　3位―伊藤和弘・阿部竜也
◆小学女子シングルス　1位―菅井沙織　2位―佐竹由加理　3位―清野友麻子・丹美湖
◆中学男子シングルス　1位―鈴木正宜　2位―若月哲也　3位―佐竹優宇矢・鈴木隆洋
◆中学女子シングルス　1位―鈴木浩子　2位―成原真希　3位―鈴木恵里・阿部由岐恵
◆一般オープンダブルス　1位―阿部千尋・阿部美奈　2位―長岡啓治・大井重宏　3位―大井忠夫・若月俊行　柴田徹・佐竹とめよ
◆親子ダブルス　1位―清野雅英・友理子　2位―丹明美・美湖　3位－佐竹敏子・由香理　阿部徳雄・奈穂美

■第1回町民インディアカ大会（3／2）町民体育館
1位-センシュウ　2位-TAROU　3位-サンサ

広報クイズ　図書券が当たる

【問　題】

問1　右写真の名前は「○○○ランタン」（ヒントは8ページ）

問2　町立病院の新しい診療棟での診察開始日は「○月○日」

問3　今年めでたく県立左沢高等学校朝日分校を卒業したのは「○人」

【応募方法】（3月31日締め切り）正解を「広報あさひまち」の折り込みハガキに書いて送ってください。正解者の中から抽選で3人の方に図書券をプレゼントします。また、答えの下に広報の記事について感想をお聞かせください。お願いします。

【2月号の答え】C・御柴灯・3

【応募者総数】41人

【2月号の当選者】白田光代さん（大谷五）・大滝博美さん（下芦沢）・佐竹厚則さん（常盤）

こせきのまど

■2月1日～28日届出

すこやかに
（出生届）

区名	出生児氏名	父名
本町	滝川瀬奈	芳巳
栗木沢	菊地咲良	健男
西町	安孫子巧	幸弘

おしあわせに
（婚姻届）

光股正直（上山市）	♥	相座祐子（送橋）

やすらかに
（死亡届）

区名	死亡者氏名	世帯主
新宿	柴田民恵	一男
大町	松尾正治郎	正一
大谷七	小野ヒテノ	晴男
四ノ沢	鈴木なをゑ	本人
四ノ沢	渡邉きよ	本人

人口と世帯数

●平成9年2月28日現在

人口		9,964(減 3)
	男	4,952(減 3)
	女	5,012(0)
世帯数		2,579(減 2)

（ ）内前月比

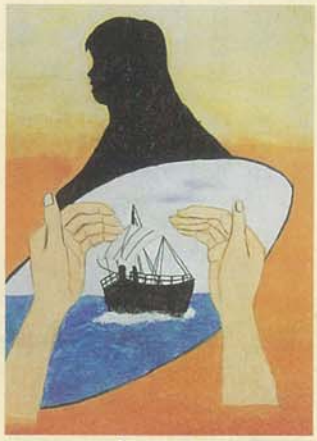
わたしの作品

〈朝日中学校〉

「私はここにいる」
3年　長岡　麻衣さん

「秘密」
1年　村山　彩さん

「通り過ぎた未来」
1年　佐藤　妙さん



「沖の娘」
2年　村山晃規くん

滑り納めは朝日自然観で

長い冬も終わりに近づき、間もなく春を迎えますが、朝日自然観では現在も一メートルを超える積雪があり、春の訪れはもう少し後になりそうです。

今シーズンの朝日自然観スキー場は、三月二十三日で終了します。滑り納めはぜひ朝日自然観スキー場においでください。

▼おわびと訂正

本紙二月号のこせきのまどで、大谷三の菅井蓮さんが菅井蓮さんの誤りでした。おわびして訂正いたします。

春夏秋冬

編集後記

▼先日、上郷小学校杉山分校と大谷小学校川通分校の閉校式が行われました。

杉山分校は百十七周年、川通分校は九十五周年を迎え、三月三十一日に歴史の幕が下ろされます。児童はもちろんのこと卒業生や地区民のみなさんにとって、「閉校は寂しい」の一言につきるのではないのでしょうか。しかし私は、「これまで培ってきた伝統と数々の思い出が、心の中に生き続けていれば、ぼくたちは寂しくないよ」と、校舎がみなさんに最後の言葉を語りかけているような気がしました。

新しい伝統を築き上げていく両分校七人の児童と、これから入学される両地区の子供たちにエールを贈りたいと思います。「本校のみなさんと仲良く、そして負けないようにがんばってください」。

（岡崎）